

---

# 天翔し銀の龍 ~ Silver Heaven's Dragon ~

斬鉄犬

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天翔し銀の龍 } Silver Heavens Drago  
n

### 【Nコード】

N4538BA

### 【作者名】

斬鉄犬

### 【あらすじ】

少年の名はジュナス。二振りの剣を持ち、龍を下す者。  
龍の名はシルバ。銀の鱗と紅蓮の火焰を持ち、龍を喰らう者。

一人と一匹。  
人と龍。

異なれど近しい者達の織り成す、太古の物語。

## 1・少年（前書き）

はい。

斬鉄犬です。

昔から書きたかったモンスターハンターの小説にチャレンジしてみたいと思います。

それではごゆっくりご覧下さい。

## 1・少年

「よつと…つっ……」

雨戸を外した途端、一気に入ってくる朝の日差しに思わず目を細める。

「ニヤ。ジュナスの旦那さん、おはようニヤ。朝食にするニヤ?」

眠たそうに目をこすりながら話しかけてきたアイルーは、僕の子どもの頃からの相棒、ティオだ。

「おはようティオ。悪いけど、先に『シルバ』のところに行くよ」

わかりましたニヤと言ってキッチンの方へ歩き出すティオ。

僕は収納ボックスから生肉と肉焼きセットを取り出し家を出た。

「相変わらず早いね、ジュナス」

「やあ、リズ。おはよう」

リズ「タニエ。」

幼なじみで同業者の女性だ。

装備はチグハグだが、実力は確かで、ハンマーを振り回したらこの地域で一番だと思う。

「今日も愛しの『シルバ』のところかしら?」

…どういっわけか僕に対して若干棘がある言い方ばかりしてくる。

「うん。リズも一緒に来る？」

「やめとくわ。私はコイツ一筋なのよ」

ツンツンと親指で頭のナルガスヘルムを指す。

「そうかい。じゃあ後で一緒に狩りに出ない？手伝って欲しいクエストがあるんだ」

「へえ？アンタほどの手練れでもクリア出来ないクエストがあるのね」

「まあね。『狩人は独りに非ず』ってやつさ」

「それはお師匠様の言葉でしょ」

言われて苦笑いを浮かべる僕。

リズと僕はこのヒマリ村で生まれ育ち、先代の村の守り手のハンターであるガイズ「ゼルウィガー」と言う人にハンターのいろはを叩き込まれた。

僕らは早くに親を亡くしていたのだが、そんな僕らを師匠は本当の親のように育ててくれたのだ。

「師匠が居なくなってもう四年、か」

ところが四年前。

師匠は忽然と姿を消した。

師匠が寝泊まりをしていた家には

「災厄と最悪を狩る。戻らなければ死と思っべし」

と言う書き置きがあるだけだった。

村人の中には

「あの男は逃げたのだ」

とか

「我々は見捨てられた」

とか、師匠を散々貶す人もいた。

でももしそうなら師匠は僕らをハンターとして育てたりはしなかっただろうし、何より自分の相棒で、オトモ界最強と言われたアイルー・ムサシとコジローを村の門番として置いていたりはしなかった筈だ。

僕は怒り狂う村人を何とか鎮めた後、『師匠が帰るまでは自分達がハンターをやる』と言う条件の元、師匠の件を特別に保留にしておもらった（本来なら師匠の行為はハンター条項に違反している為、ハンターの資格を剥奪されるか、最悪の場合、死刑と言うこともあり得た）。

あれから四年。

一向に消息がつかめない師匠の代わりに僕らは凶悪なモンスターから村を守っている。

ヒマリ村はシンザ山と呼ばれる活火山の麓にある村で、豊富な鉱山資源や貴重な鉱石が採れる反面、ウラガンギンやグラビモスを始めとした危険性の高いモンスターが生息している。

そんなモンスター達を相手に今まで生き残って来れたのも、師匠の指導のおかげだ。

「……師匠、早く帰って来ないかなあ……」

「本当。どこほつつき歩いてんだかね、あの太刀マニア」

口ではこう言っているが、本当はリズムも師匠のことをとても心配しているのだ。

と。

『ギャオウウウ』

いきなり農園の方から龍の鳴き声が届いた。

「何！？襲撃！？」

自慢の『水鎚ヴォジャーノイ』に手を置いて、走りだそうとするリズム。

「あ、待ってリズ」

しかしそんな彼女を僕は引き止めた。

「ッ！？何よ！」

苛立ち気味にこちらを見る彼女をよそに、呟く。

「多分、『シルバ』だ」

続く。

## 1・少年（後書き）

いかがだったでしょうか。

別作品と同時進行になるので、更新は遅くなるかもですが、暖かい目で見守って下さい。

ここまで読んで下さった皆様に心から御礼申し上げます。

それでは。

斬鉄犬

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4538ba/>

---

天翔し銀の龍 ~ Silver Heaven's Dragon ~

2012年1月12日10時52分発行